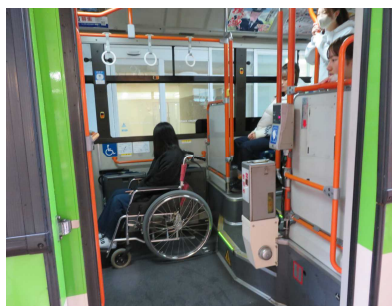


日時：令和5年11月30日（木）9：10～12：20
場所：富山短期大学
主催：北陸信越運輸局
協力：富山地方鉄道株式会社、富山県タクシー協会
対象者：富山短期大学幼児教育学科生（78名）

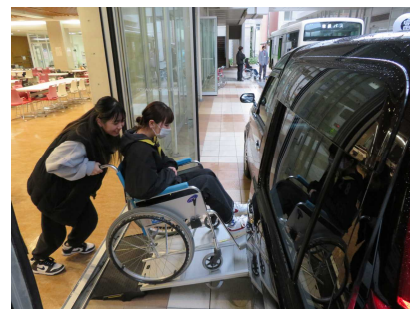
実施概要

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象にバリアフリー教室を開催しました。

手や足に重りを着け、見えづらくなるゴーグルを着用した**高齢者擬似体験**や、目が見えない状態で折り紙を折ってもらう**視覚障害者擬似体験**、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーに乗降する**車椅子体験**などを通し、障害の有無にかかわらず、お互いが支え合い、誰もが安心して生活できることの大切さを学んでもらいました。



【車椅子体験（ノンステップバス）】



【車椅子体験（UDタクシー）】

参加者の声

高齢者擬似体験

- ・普段何気なく行っている動作でも制限があると簡単ではない。
- ・信号を渡る時など危険なので命に関わる。そのため正しい知識が必要。
- ・視覚、聴覚、四肢不自由で生活するには苦労ばかりだと感じたので支援の仕方を考えさせられた。
- ・人によって不自由なところは違うので、その人に合わせた援助をしたり声かけをしたりしなければいけないと思った。

視覚障害者擬似体験

- ・情報が伝わりにくいので、具体的な指示やゆっくりと大きな声で話すと伝わりやすいことに気づいた。
- ・色によっても区別がつかない形があり見えないことに驚いた。
- ・時計の針の位置を使って説明するとお互いに良いと気づいた。
- ・今までの経験があるから折り紙を折ることができたけれど、小さな子供に対して、普段馴染みのないものを言葉で説明するのはとても不安に思った。

車椅子体験

- ・車椅子に乗ってみて、普段の歩くスピードでは速く感じ、少しの段差や坂でも怖かった。
- ・介助側も乗る側もお互い怖い思いをしないように安心できるような声かけが必要だと理解した。



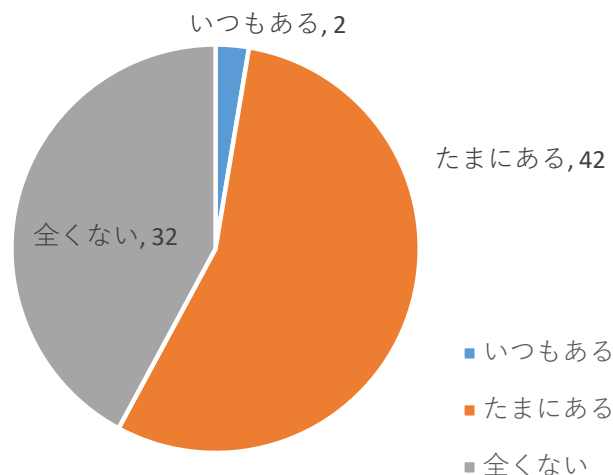
【高齢者擬似体験】

【視覚障害擬似体験】

バリアフリーに関するアンケートの実施

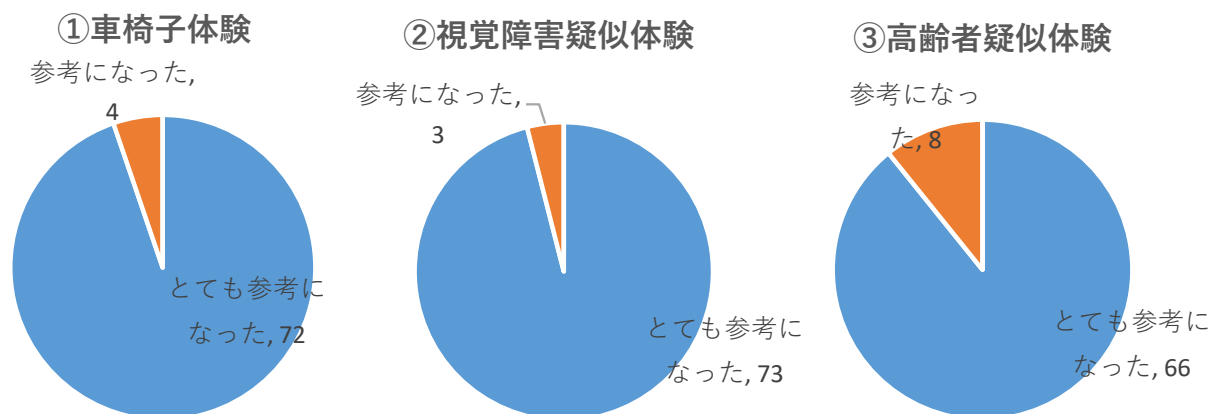
バリアフリー教室終了後、参加者を対象にバリアフリー体験の感想や「心のバリアフリー」に関するアンケートを実施しました。

1. 普段から移動などで困っている人と接する機会がありますか。（回答数:76）

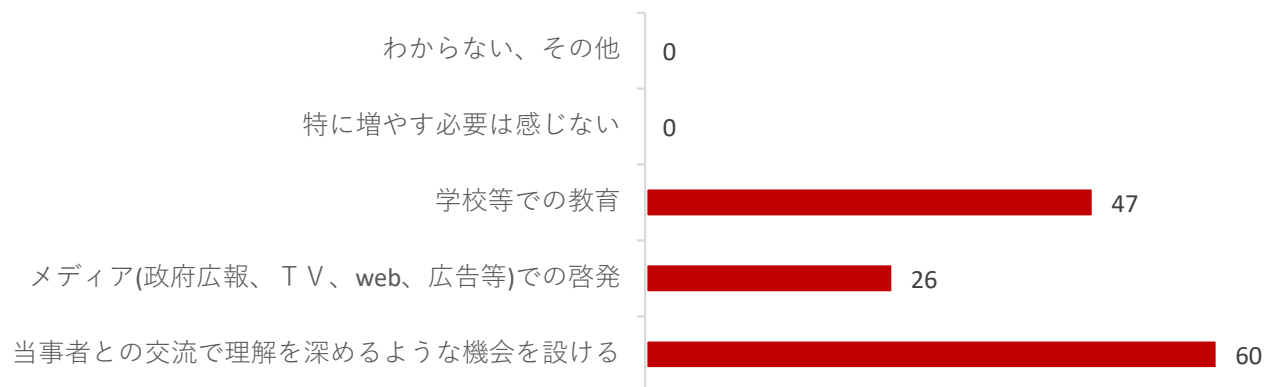


公共交通利用促進PRキャラクター のりたろう

2. バリアフリー体験について今後の生活に活かせそうですか。（回答数:76）



3. 「心のバリアフリー」を実践できる人を増やすにはどうすればよいとおもいますか。（複数回答可）



4. あなたが「心のバリアフリー」を実践するためにはどうすればよいとおもいますか。（自由記述）

- ・「自分だったら」と考えてみる。
- ・偏見をなくし困っている人の立場に立ち寄り添うこと。
- ・当事者の人と共に考える。
- ・障害があっても自由に移動できるよう、見かけたときは声をかけサポートできるようにする。
- ・多くの人に心のバリアフリーを知ってもらうこと。
- ・思い込みをなくすこと。相手のことを理解しようという気持ちを持つこと。
- ・障害の有無にかかわらず、それぞれ不都合があるところは支え合える環境にする。
- ・相手の立場に立って、様々な状況を予想する。